

国際式天気記号：気圧変化傾向

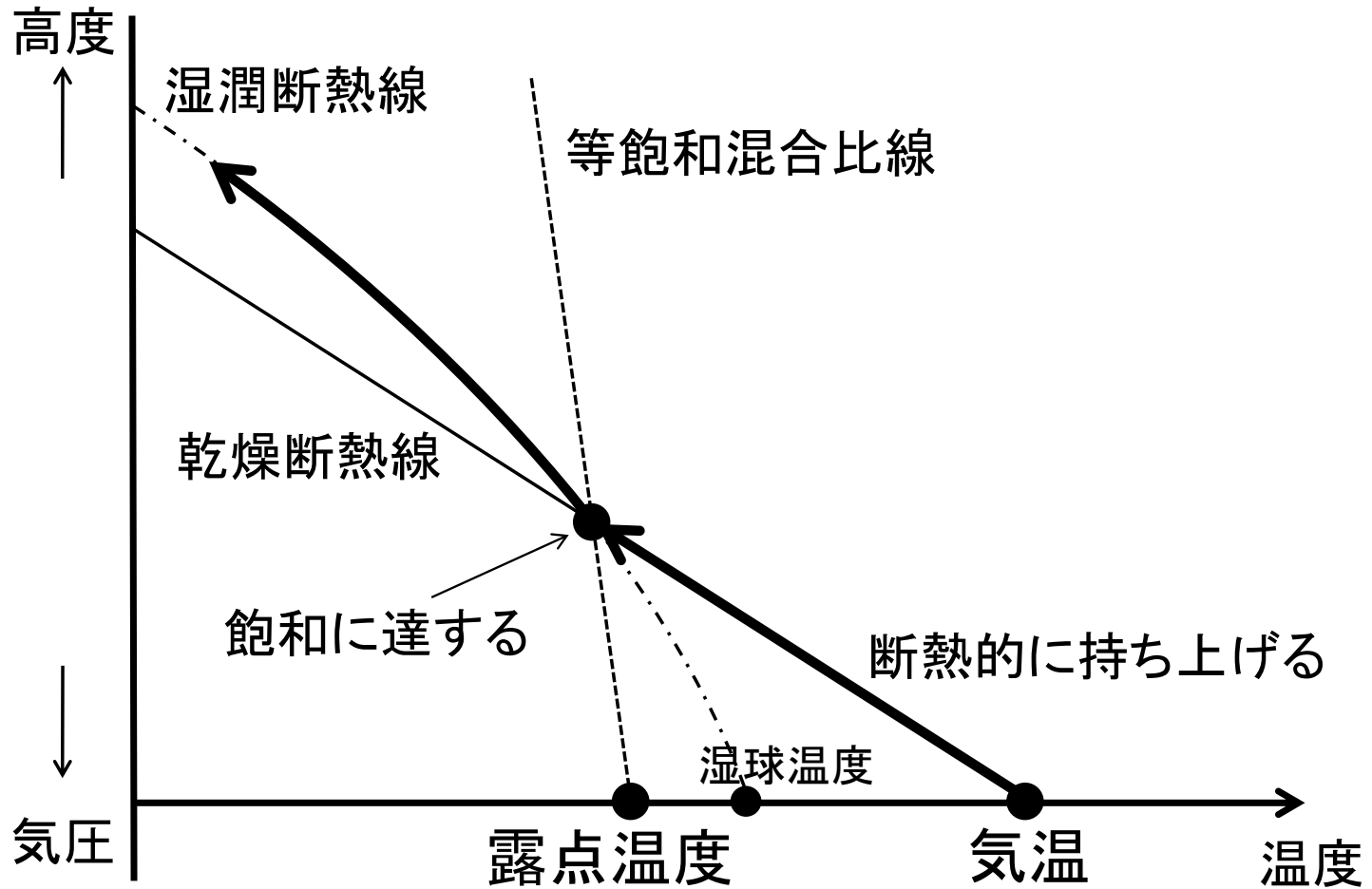
0		上昇後下降 0+	5		下降後上昇 0-
1		上昇後一定／上昇後緩上昇 +	6		下降後一定／下降後緩下降 -
2		一定上昇／変動上昇 +	7		一定下降／変動下降 -
3		下降後上昇／一定後上昇／ 上昇後急上昇 +	8		一定後下降／上昇後下降／ 下降後急下降 -
4		一定 0			

※0／+／-：現在の気圧は3時間前の気圧に等しい／より高い／より低い。

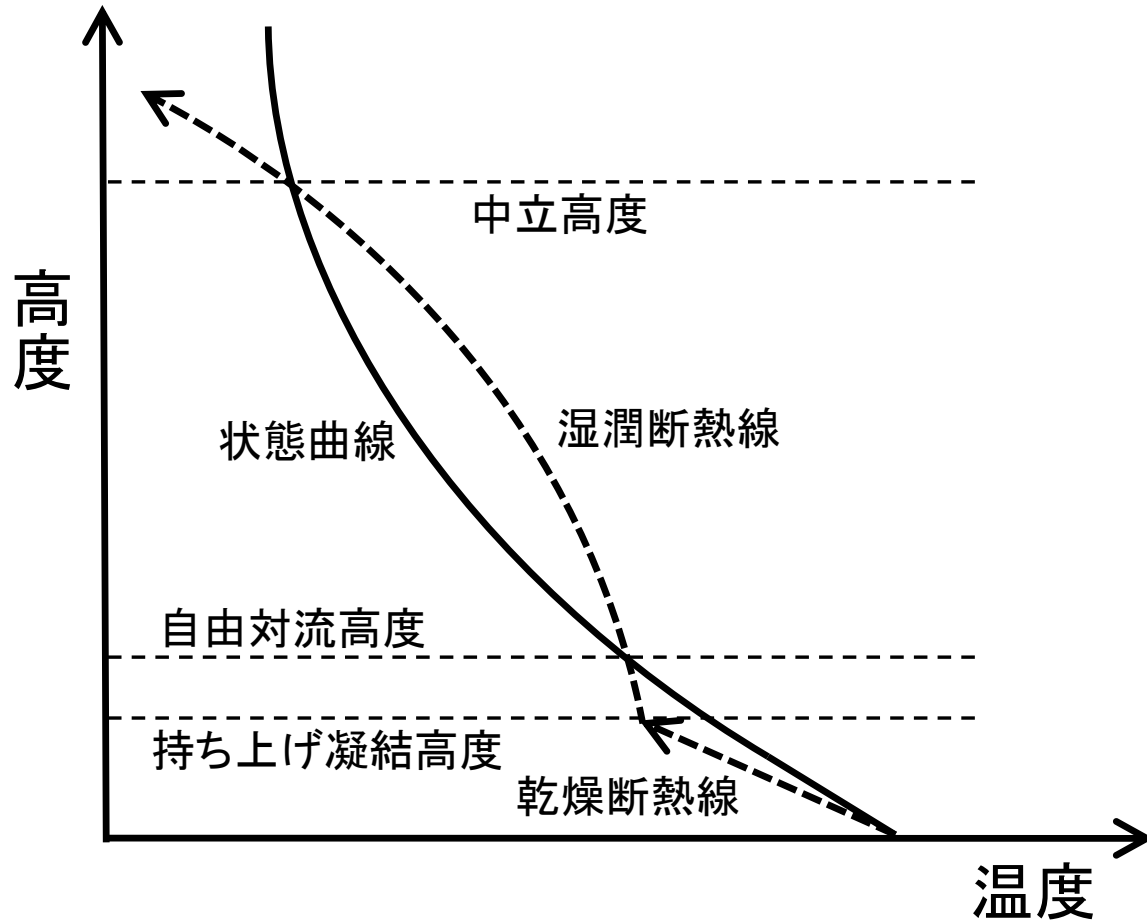
安定度：大気の鉛直安定度

- 気温(温位)による安定度：
 - 絶対安定：温度減率 < 湿潤断熱減率
 - 条件付不安定：湿潤断熱減率 < 温度減率 < 乾燥断熱減率
 - 絶対不安定：乾燥断熱減率 < 温度減率
- 相当温位による安定度：
 - 対流不安定：相当温位が上空にいくほど低い。

安定度：エマグラム



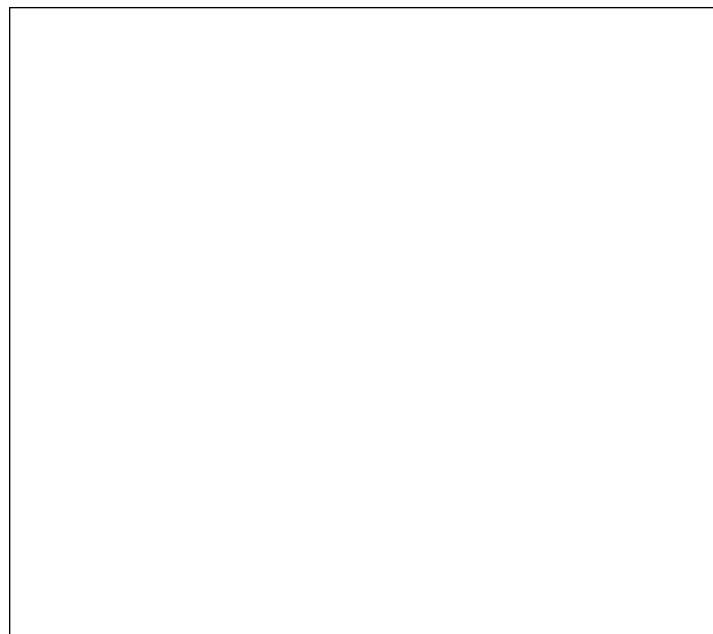
安定度：安定度の指標



雲画像：事例

- コンマ雲

- 低気圧の後面から流入する寒気に対応して対流雲が組織化し、コンマ状になった雲域。



距離と速さの単位

- 1海里(NM): 緯度1分に相当する距離 【定義】
= 1852m
緯度1度 \doteq 111km
- 1ノット(kt): 1海里/時 【定義】
= 1.852km/時 \doteq 0.5m/s (0.515m/s)

※子午線(北極から南極まで緯度180度分)
 \doteq 20000km

梅雨前線：特徴

- 比湿の勾配が大きい(温度の勾配は大きくない)。→相当温位の勾配が大きい。
 - 850hPa、500hPa天気図で判断。
- 湿舌：高相当温位域が南西から伸びる。
- 下層ジェット：前線の南側で南西風。
 - 対流活動によって、強い偏西風が吹く上層の空気と混合。
 - 850hPa風・相当温位解析図で判断。

梅雨前線：特徴

- 湿潤中立成層。
 - 相当温位が鉛直方向にほぼ一定(←対流活動)。
- メソ低気圧。
 - 前線上に、数100kmから1000km程度のスケールの低気圧。

突風に関する気象情報

- 竜巻発生確度ナウキャスト
 - 気象ドップラーレーダーによる観測など。
 - 10km格子、10分ごとの値、1時間後まで、10分おきに発表。
 - 発生確度1、2。
 - 発生確度2→竜巻注意情報を発表。
 - 「竜巻あり」の予報の評価スコア： 発生確度2に比べて発生確度1のほうが、的中率は低く(空振りが多く)、捕捉率は高い(見逃しが少ない)。